

発行所

株式会社FPシミュレーション

大阪府中央区平野町3-1-10 Tel:06-6209-7678

編集発行人:税理士 三輪 厚二 Fax:06-6209-8145

⇩ 平成11年分路線価・7年連続で下落

Q : 先月公表された平成11年分の路線価は、やはり前年分と比べて、下がっているのでしょうか。

A : 前年より更に評価額の下落した地点が続出し、全国平均では7.1%の下落率です。

【解説】

平成11年分の路線価が、例年より2週間程早い8月4日に公表されました。

今年の路線価は全国的に下落しており、標準宅地の評価基準額の平均額では、全国平均で7.1%下落しています。下落率が10%を超えたのは、北海道(14.1%)と千葉県(11.2%)です。逆に評価基準額の平均額に変動がなかったのは、岩手県、山形県、島根県の3県です。今年は下落率も拡大し、全体的にみて、昨年とは逆に都市圏で下落率が大きくなり、地方圏での下落にはさほど目立った変動はありませんでした。

また、都道府県庁所在都市の最高路線価も発表され、それによると47都市全てで路線価は下落しています。下落率が最も大きかったのは、札幌市中央区の三越前の30.7%です。一方、下落率が最も小さかったのは、東京都銀座の鳩居堂前の1%です。この鳩居堂前は、平成4年のピーク時のおよそ3割程度まで落ち込んだこととなります。

最高路線価の推移を10年間で見ると、今年の路線価の傾向として、下落幅が拡大したとはいえ、バブル期前の水準に近づきつつあり、今年で下落傾向が落ち着いてきたとみることができそうです。

